

教育学系

教員数	教員等数 (人)	教授 22 (21)	助教授 15 (15)	講師 3 (5)	助手 2 (3)	技官〔準研〕 3 (3)	
	異動状況 (人)	退職・転出 2 (-)	昇任 3 (6)	採用 1 (4)	学内 -		
研究活動	研究発表 (件)	論文・著書発表数		学会発表数			
		国内	国外	国内	国外		
		159 (177)	7 (2)	72 (64)	6 (13)		
	受賞数	1 (0件)					
	研究費等		採択件数	採択率(%)	金額(千円)		
		科学研究費	17 (19)	47 (56)	36,980 (27,500)		
		学内プロ	8 (6)	40 (33)	4,620 (3,670)		
奨学寄附金件数・金額			件	千円	(件)	千円)	
受託研究件数・金額			件	千円	(件)	千円)	
	受託研究員			人 (人)			
施設・設備							

・ () は前年度の数値を示す。

1 教育学系の活動

一番大きな活動は、筑波大学教育学系が大学評価・学位授与機構による「平成13年度着手分野別研究評価」の対象となり、その評価を受けたことである。学系内に外部評価委員会を設け、資料収集や自己評価書の作成に対応した。とりわけ平成14年度の前半は、その作業に忙殺された。個々の教員は、それぞれの分野において、研究・教育においてはもちろんのこと、学会活動や文部科学省の委員などをつとめ、大学内・外において成果をあげている。中華人民共和国の東北師範大学との国際交流協定を締結した(6月3日)。教育学系と関係の深い「教育開発国際協力研究センター」が4月に発足し、業務を開始した。

2 自己評価と課題

- (1) 大学評価・学位授与機構による評価では、全体として「目的及び目標の達成におおむね貢献しているが、改善の余地もある」との評価を受けた。これは5段階評価の上から2番目に相当している。5項目のうち、「2研究内容及び水準」については、「伝統ある大学だけあって各分野で学界をリードする研究者を擁しており、独創性、発展性、教育実践への貢献、他分野への貢献のいずれの分野でも、高い水準にある」と高い評価を受けた。地域への貢献や研究成果のフィードバックの在り方等については、今後改善していかなければならない。
- (2) 教員人事については、採用人事および昇任関連人事のいずれにおいても、原則として公募制を取り入れて行っており、研究活動等の活性化に資している。教授及び助教授枠の補充人事については、学系内の諸事情により、平成14年度内に任用にまで至らなかったことは反省点で、次年度の課題である。
- (3) 国際交流においては、海外の6大学と交流協定を結び、さらに新たに東北師範大学との国際交流協定を締結した。韓国の延世大学には、交流の一環として教育学系から講師を派遣した。地道な成果をあげつつあるが、さらに国際交流の成果をあげていくためには、財政面での工面をどのようにしたらよいか大きな課題である。
- (4) 教育学系は、大学研究センター・教育機器センター・教育開発国際協力研究センター・留学生センター及び学校教育部の教員も所属しており、関係学類・研究科等における教育及び研究において連携しているが、さらに緊密な連携が望まれる。
- (5) 筑波大学教育学会は、教育学系内の組織ではなくなったが、発足して2年目になり、教育学系、さらには附属学校の教員とも連携して、教育学系の研究の伸展及び附属学校の諸問題に対処していくことが必要である。